

第9号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

2019檜山合同教育研究集会 教科等集

立ち止まって考え合おう! 子どものこと、学校のこと、地域のこと

10月5日(土) 9:30-16:30
江差町立江差小学校

教育講演会 14:30-16:00 江差小学校集会室

子どもたちの中に眠っている宝物

これからの社会を創っていく主体として子どもたちと接しながら

鈴木哲実氏 (平取町立振内中学校)

秋田県出身。北海道作文の会。綴り方教師です。子どもの心を解き放つ実践が定評で、授業を参観する者の心を惹きつけます。

「自分を開示し、周囲とつながっていく子どもたちがいる」—子どもへの信頼を基礎に紡がれる人間教育の実践に学ぶこと大です。ぜひご来場ください。



主催/檜山合同教育研究集会をすすめる会
(檜山教職員会館内 TEL0139-52-0858)

10月4日開会予定の臨時国会に向け文科省は、公立学校に「1年単位の变形労働時間制度」を導入するための法案を準備しています。学校現場の働き方改革の一つとして取り沙汰されたものですが、長時間過密労働の解消につながるどころか、いっそう深刻な事態を引き起こしかねません。時間外勤務が隠されてしまっただけでなく、退勤時刻が今までよりもっと遅くなる危険が潜む制度です。その問題点をみていきましょう。



ちょっと待って!

1年単位の变形労働時間制



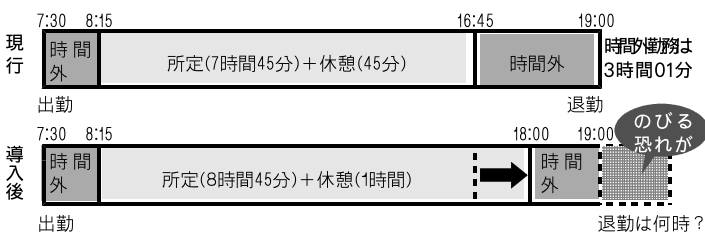
文科省 臨時国会向け法案準備

やっぱり「せんせいむざむざ」

えれば、時間外勤務の実態を覆い隠すだけ、長時間過密労働の解消にはつながらず、最終時刻が遅くなることで、授業準備等の業務が後にもわかれ、退勤が今よりも遅くなってしまうことが懸念されます。(下図参照)

「1年単位の变形労働時間制」とは、1年間を「繁忙期」と「閑散期」とに分け、「繁忙期」の勤務時間を延長し、「閑散期」の勤務時間を短縮することによって、年間での平均した週当たり労働時間が40時間を超えないようにする制度です。しかし、1日平均11時間17分の勤務を行っている学校の現状(厚労省「18過労死等防止対策白書」)を考慮

小学校教員に变形労働時間制が導入されると...



も10日前後組み入れられる場合があります。子どもの指導や地域行事への対応も「閑散期」ではありませぬ。06年の調査は、長期休業中の勤務実態調査は実施されず、現状は「閑散期」などと言えない状況にあると推察され、学校の単位では、労働時間の変形も逆もあり、例を挙げると、勤務時間が残

の安全と安心が確保されない状況下では、ゆとりをもって子どもと向き合い、じっくりと授業の準備を行うことがいっそう困難になります。育児や介護等、さまざまな事情を抱えながら勤務する教職員にとってはとりわけ深刻です。「働き続けられないかもしれない」という声があがっています。本制度導入は、教職員と学校をさらに追い詰めることになりかねません。「閑散期」とされる長期休業期間の実態はどうか。文科省調査でも、長期休業期間中も時間外勤務の実態があることが明らかにされています(06年調査)。補充教室や部活動のほか、初任者研修

ネット署名にご賛同を!



スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。

せんせいむざむざ

業時間も長くなったという報告が上げられています(労働政策研究・研修機構報告書では月平均204.1時間↓22.9時間)。そもそも「1年単位の变形労働時間制」は、「労働時間をあらかじめ定めておくことが困難な業務」には適用する余地がないとされ、学校現場に馴染む制度ではありません。教職員を含む地方公務員への同制度導入は、法律で「適用除外」とされています。その制約を払うため、地方自治体の条例等によって導入を可能にする仕組みを作ろうというのが法案の前身です。1年単位の变形労働時間制の適用の趣旨を曲げてまで導入することに道理はまったたくなく、立法根拠の正当性を疑わせます。一人ひとりの子どもたちにゆきどいた教育をすすめるためには、教職員の働き方を強制的に改善することは必須です。当面、勤務条件の後退や悪化を招く1年単位の变形労働時間制の導入を押しとどめる課題が緊要となっています。全教・教組共闘連絡会が国会請願署名を提起しました。臨時国会を注視し、衆参議長に提出する予定です。当事者である教職員の声をしっかりと届けることが重要です。ご協力をお願いします。

子どもに寄り添う教育、教師の仕事



檜山合同教育研究領域等集会

最終回です。時間制約で報告では深く触れられなかった「不登校」について、若干本人に追加筆していたいただきました。

実践報告要旨 最終 笹原昌子さん(瀬棚中学校)

不登校生徒と関わる機会が多かった。子どもも親も苦しくつらい。中には「生存」の危機を抱えるほどに絶望感に打ちひしがれる場合もある。

教育機会確保法の流れもあり、学校外での「学びの場」づくりが探られている。でも、檜山には、不登校の子どもや親に関わる専門の支援施設がないので、当事者は孤立しやすい。学校の役割はいつそう大切だと感じる。

不登校の子は、疲れ切っていて、我慢と頑張り、の沸点に達していることが多い。友だちとの関係がこじれ、修復の難しさにたじろぎおのれ、子どもたちも見てきた。家庭は何より安心の場であるが、親の心配と期待を感じ取り、子は家でもしんどい。

でも、何かしらの関わりを持ちながらその子の中に自信や希望を育むことができれば、どこかで克服していけると信じたいし、事実、そうだった。中学生の時代にできる可能な関わりを持つことを大事にした。学校はそんな場でありたいと思う。

まずは子どものことを知り、分かり続けること。基本は、「子ども理解」を通じた信頼関係づくり。その上で、第一に安心の場を確保すること。次に、できるだけ外の世界に触れさせ、他者と関わらせること。とくに同年代とのつながりづくりを重視した。こうした視点やとりくみを大事にしている。

個人対応には限界がある。職場の理解と課題意識が共有されなければならぬ。築かれた信頼関係

教師の仕事

係を基礎に子どもとの関係性を広げていく。そうして学校を、その子の安心の場としていく。

中学1年のある日を境に全く学校に来なくなったKくんは、家にひきこもった。関わり続けて1年目、一対一の「放課後学習」からクラスメイトの友だちも参加する「夜の学校」に。体を動かして遊ぶ。そのうちに進んで学習課題に取り組みようになった。級友たちと一緒に温泉に行き、「愚痴」を洗い流すようにもなった。Kくんを推す力になったのは何か。友だちや他者との関わりが大きい。そして苦しみながらもKくんを見守り続けた家

族の存在。「不登校」の現実を前に悲嘆にくれる親は、我が子への愛情を確かめるように苦悩する。そんな親を支えるのも親たちとの関係性。「不登校」への特別対応について学級の保護者は含むように分かっていく。その背後には、クラスの子どものための優しさに満ちた言動がある。「夜の学校」に「行っておいで」と我が子を送り出してくれる、そんな心づかいが伝わり、励まされるのだ。「もつともつらいのは子ども」と、必死に我が子と向き合ったKくんのご両親。お二人がKくん一四歳に寄せた「誕生記」を紹介したい(左掲)。生まれたばかりの無垢な我が子を感じ返しながら、今につながる日々を紡ぎ直すかのように、かけがえない存在に寄せる思いの深さが伝わる。

最大の原動力はKくん自身の「願い」と「可能性」だった。不安で夜も眠れず昼夜逆転の生活を繰り返すKくん。でも「もう少ししたら直せる。努力してるんだ」と自らを振り返るようになっていった。そして3年生になる直前のある日、「学校に行けるようになりたい」と言って「登校」を決意する。学習の遅れや体力の衰えなどの大きな課題に直面しつつ、クラスの一人としてKくんはみんなと一緒に着実に自分の道を歩んでいった。その姿に関わった者たちも励まされる。管理職はじめ同僚の誰もが力を添え、見守ろうとしてくれたので、分かち合う喜びも一入だった。保護者はもちろん他の父母たちも。卒業式では答辞も読み上げた。来賓の方々もしばしば留まり、Kくんと彼のクラスに拍手を送り続けてくれた。「地域みんなの子ども」でもあるのだ。Kくんは「登校」を自分で決めた。そして、そこに至るまでには様々な関わりがあった。「信じて待つ」という関わりが、いろんな「存在」が関係づけられ、人となりがつながれていく、そんな安心感あふれる土壌が子どもを支えるのだと思う。(終わり)

信じて関わる

不登校

「お誕生日おめでとう」

〇〇の名前の由来は、綺麗な海がある土地に生まれ、海のような大きな心と気持ちを持つ人間になってもらいたいという思いで、名前に海を入れました。体重3,060グラム、身長50センチメートル、目がぎょろっと大きく、手足が長い子どもで、産まれた時は宇宙人のようでした。(笑) 母乳をよく飲み、夜泣きが多く、母の体重は一気に減りましたが、〇〇は日増しに丸々と育ち、手と足は輪ゴムをはめたかのように、ムチムチとしていました。色が白く、女の子に間違われることも多く、どこに連れて行っても、可愛い子だと言われ、親ばかりですが、とても嬉しかったことを思い出します。小さい頃は甘えん坊で、お母さん子だったと思います。

父の14歳は、サッカー部でしたが、実はサッカーが好きではなく、勉強はもっと嫌いでした。中学1年から高校3年まで新聞配達を休まず続け、仕事には真面目でしたが、友人宅で毎日のように遊び、勉強はしてませんでした(笑)。

母の14歳は、吹奏楽部で休みが一切なく、とても辛かったこと、勉強は中の下位でしたが、この頃からコツコツと始めて、中学3年までには、ランクが上がるくらい頑張ったことが思い出されます。

〇〇は今少し寄り道と遠回りしている時期だと思っています。人生80年だと思えば、この時間はたいしたことではありません。この時間が将来大人になった時に、プラスになってくれることを願っています。

父・母より

女性教職員交流会で試作された「おやつレシピ」紹介。

☆とうふでかぼちゃプリン☆ 田舎風

- | | | |
|-----------------|---------------|-------|
| 材料 | 砂糖 | …大さじ2 |
| ・かぼちゃ(正味) …200g | ・ゼラチン | …5g |
| ・牛乳 …150cc | ・水(ゼラチンをふやかす) | …大さじ1 |
| ・絹ごし豆腐 …150g | | |

作り方

- ①ゼラチンはふやかしておく。
- ②カボチャは皮を剥いて蒸すかチンして、マッシャーでつぶす。
- ③片手鍋に牛乳と砂糖と絹豆腐を入れかき混ぜる。(まだ火にかけない)
- ④③の鍋につぶしたカボチャを入れよく混ぜたら、沸騰させないように中火にかける。
- ⑤鍋を火から下ろし、ふやかしたゼラチンを入れよく混ぜ合わせる。
- ⑥型に入れ冷やす。
*黒蜜やクリームを好みて。



栄養とほんのり風味を残して去って行く豆腐…カッコイ

(提供:長谷川みどりさん)



教育の課題を読み解き、現場から教育を問う月刊誌

月500円 年間6000円
お申し込みは檜山教組へ



うれしいとき、かなしいときにあなたを応援します。

総合共済

月々 600円

さらに退職時には 掛金が全額戻ります!

- 結婚祝金に10,000円
- 出産祝金で5,000円
- 災害見舞金に10万円(全壊)など 他にもいろいろ